



南国さつま町にハネトが舞う

鶴の架け橋交流事業・さつま町5周年記念ねぶた運行

ねぶたで沸き立つさつま町

11月13日（土）から11月15日（月）まで「鶴の架け橋交流事業」が鹿児島県さつま町で開催され、11月14日（日）の「さつま町5周年記念式典」に合わせて鶴田町から訪れた町民ら85人とさつま町民の方々の共同で「青森ねぶた」の運行が行われました。

ねぶた運行では、8月14日に当町で行われた「青森ねぶた贈呈式」で、さつま町に贈られた青森ねぶた「天草四郎」が披露され、さつま町の中央にある運行会場は、本物の青森ねぶたを一目見ようと4000人以上の観衆で埋め尽くされ、会場はまるで真夏の青森ねぶたを思わせるほど熱気に満ち溢れていました。

午後6時過ぎ、出発の号砲とともにさつま町役場前を出発した一団は、「祝さつま町合併5周年」の横断幕を先頭に、中野町長と日高さつま町長が並び、その後、列中央では、この日のために笛と太鼓を練習してきたさつま町の方々と鶴田町太鼓の会、そして仲町ねぶた有志の混成チームで息が合ったねぶたばやしを披露していました。

はやし方に続いて、当町の女性陣による流し踊りが披露されました。流し踊りは、さつま町

・ピタリ息の合った両町のはやし方



・真夏の青森ねぶたを思わせる会場の熱気





- ①運行を盛り上げてくれた鶴田幼稚園の園児たち
- ②大人に負けじと「ラッセラー」の大きな掛け声を出す園児
- ③鶴田町の女性陣で結成された流し踊りには観衆から大きな拍手が贈られていました
- ④沿道の子どももはやしに合わせ手振り鉦を振って参加
- ⑤4000人を超す観衆とねぶたに興ずるさつま町の方々
- ⑥さつま町から参加したハネトの子どもたち
- ⑦運行のフィナーレを飾った打ち上げ花火



東北新幹線全線開業と青森リンゴをPR!

今回行われたねぶた運行の際に、東北新幹線全線開業をPRするオリジナルのうちわ1000枚と県産リンゴをPRするパッケージに入った鶴田産のリンゴ1000個（記念式典で800個・ねぶた運行で200個を配布）がさつま町の方々に配られ、新幹線を利用して、ぜひ青森県に、鶴田町に来てほしいと呼び掛けが行われました。

来年3月には九州新幹線が鹿児島まで全線開業になり、青森―鹿児島間が10時間で結ばれ、さらなる交流への期待が膨らみます。

・さつま町で配られたリンゴのうちわ



に出発する5日前から直前まで練習を行っていて、つるたまつり本番さながらの息の合ったすばらしい踊りを披露してくれました。

ねぶた運行を盛り上げるハネトたちは、ねぶたの衣装を着たさつま町の方たちと鶴田町みどりの会の若者たちが受け持ち、ホイッスルと「ラッセラー」の大きな掛け声とともに跳ね、沿道にいるたくさんの方々の観衆も巻き込んで本格的なねぶたの集団をつくっていました。

また、観衆の目を引いたのが、

手づくりの金魚ねぶたを持ったさつま町鶴田幼稚園のかわいい園児たちで、運行中ずっと「ラッセラー」の大きな掛け声で運行を盛り上げ、観衆の目を楽しませてくれました。

運行終了後に、鶴田町にさつま町の方より、反響のハガキや電子メールをたくさんいただきましたので、その一部をご紹介します。

「本物のねぶたがさつま町で見られるなんて夢にも思いませんでした。感動をありがとうございました。」(一部抜粋) eメール||さつま町住人の女性

青森県鶴田町 鹿児島県さつま町 友好交流協定締結式・祝賀会



・協定書に署名する中野町長と日高町長

新たなる 交流の幕開け 鹿児島県さつま町と友好交流協定を締結

友好交流協定を結ぶ

11月13日(土)、鹿児島県さつま町と鶴田町の友好交流協定締結式が行われました。

鶴田町と鹿児島県旧鶴田町は、平成9年8月に姉妹都市盟約を結び、視察研修やアジサイの植栽、農産物交流、子どもの文化交流などさまざまな交流を繰り返してきました。

旧鶴田町は、平成17年3月に宮之城町と薩摩町の3町で合併して姉妹都市ではなくなりましたが、「五ツ太鼓」の指導を受ける鶴田町太鼓の会や鶴風の会など民間レベルの交流は現在も続いています。

今回、鶴田町から中野町長率いる85人の一行が「鶴の架け橋交流事業」で、11月13日(土)から15日(月)までの日程でさつま町を訪問しました。そして、鶴田町と同じ町名で13年前に姉妹都市盟約を結んだことがきっかけになり、同13日、さつま町との友好交流協定が締結され、再びさつま町との交流の幕が開かれました。

締結式では、両町長、議長が署名した協定書の交換、両町間で記念品の贈呈が行われ、鶴田町からは、津軽塗伝統工芸士会会長の坂本彰彦さん(鶴田町)

・写真右/協定書を交換する中野町長と日高町長
(11月13日)

・写真左/友好の証としてさつま町に津軽塗の置物が贈られる





②



③



⑤



①



④

①さつま町鶴風の会へ記念品を贈る鶴風の会石村会長 ②鶴田町太鼓の会の皆さんは五ツ太鼓の新曲の習得も兼ねてさつま町にやってきましたと報告
③ねぶた制作を担当した「ねぶた工房龍星」の野呂さん(左)と神さん ④ハネトを披露して会場はねぶたムードに ⑤仲間ねぶた有志のはやし方の皆さん

青森ねぶた・2100*の長旅

さつま町に贈られた青森ねぶたは、分解して大型トラック2台に載せられ、11月5日(金)に鶴田町を出発して3日かけてようやく11月8日(月)にさつま町に到着しました。2100*の長旅を終えたねぶたは、交流事業の前日(12日)に現地入りした「ねぶた工房龍星」の制作スタッフとさつま町スタッフによって再び組み直され、当日あのような勇姿を見せてくれました。さつま町での運行の成功は、携わったたくさんの方々の手によって成し得たものといえるでしょう。



祝賀会で深まる交流

が特別に制作した、リングゴの形をした津軽塗の置物を贈り、さつま町からは、鶴風の会副会長西田畷夫さんが制作した、竹細工の花かごが贈られました。最後に両町長が固い握手を交わし、これから末長くきずなで結ばれることを約束しました。

締結式終了後に行われた祝賀会では、同じくさつま町と友好交流協定を結ぶ、鹿児島県中種子町(種子島)の池田副町長からさつま町と友好交流協定を結んだ経緯が述べられ、その後、会場ではさつま町とのさまざまな交流が行われました。今までさつま町と交流のあつ

た鶴風の会、鶴田町太鼓の会、鶴田町子ども会、みどりの会のほか、今回のねぶた運行のはやし方で参加する仲間ねぶた有志の皆さんやねぶたを制作した「ねぶた工房龍星」のスタッフが次々に紹介されて盛んに交流が行われました。

また会場では、明日のねぶた運行のためにと、さつま町の皆さんから「ハネト」を見せてほしいとリクエストがあり、仲間ねぶた有志の小野貢誠さんを中心に、ハネトで参加するみどりの会の皆さんによるハネトが披露されました。そして意気投合したさつま町の皆さんがハネトになった会場内を跳ね回り、ねぶた運行前日、祭りムード一色になった祝賀会となりました。

鹿児島県さつま町

今回の「鶴の架け橋交流事業」で訪問団が訪れた、さつま町内の施設や名所をご紹介します。



歴史研修センター

宮之城島津家の墓石群が残る宗功寺跡に隣接する資料館で、郷土の先人達がどのように生きたのかを歴史・民俗・美術を通して学習することができます。



ガラス工芸館薩摩の郷

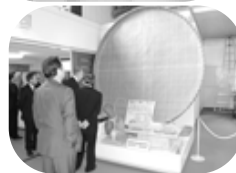
館内では薩摩切子をはじめ、その他のガラス工芸品の展示、販売を行っています。

また世界でひとつしかないオリジナルのガラス作品作りを体験することができます。



宮之城伝統工芸センター

竹のまち宮之城の代表的施設で、竹細工教室が行われ、館内には竹製品などが並び「竹の博物館」的施設でもあります。特産品販売所「フレッシュ宮之城」があり、多くの観光客が竹製品などを求め訪れています。



軸屋酒造

明治43年創業のさつま町を代表する酒蔵のひとつ。主に芋焼酎を製造販売しています。酒蔵内で仕込みから蒸溜まで製造工程を見学することができます。代表銘柄は「紫尾の露」「ほっけもん」など。あるじゃでも購入できます。



宗功寺公園

宮之城島津家の菩提寺跡で、二代島津忠長（しまづ ただなが）をはじめ累代の墓が33基残っており「宗功寺墓石群」として県指定文化財となっています。その整然と立ち並ぶ33基の墓石群は九州一の規模を誇り、国内でも珍しい墓所として広く知られています。





②



①



③



⑤



⑥



④

①郷土芸能祭特設販売ブースでリンゴを売るみどりの会の皆さん ②記念式典で握手を交わす中種子町池田副町長、日高町長、中野町長（左から） ③郷土芸能祭であいさつをする中野町長 ④郷土芸能祭が行われた宮之城総合グラウンド、22の芸能団体が出場 ⑤「さつま町民音頭」を披露する歌手の榎木美優さん（薩摩中央高校出身） ⑥3日間にわたり鶴田町太鼓の会に五ツ太鼓を指導してくださった内村さん

今回訪問団が参加した さつま町5周年記念事業

○11月13日（土）

友好交流協定締結式・祝賀会

○11月14日（日）

さつま町5周年記念式典

宮之城文化センターで開催された記念式典は、「ふるさとビデオ」や「さつま町民音頭」が紹介され、5周年記念特別功労者表彰、「未来のさつま町」をテーマにした作文コンクールの表彰が行われました。

また、友好交流協定を締結した中種子町と鶴田町が紹介され、3町の町長、副町長による堅い握手が交わされました。

第1回さつま町郷土芸能祭

記念式典に引き続き、式典会場となりの宮之城総合グラウンドでは、「第1回さつま町郷土芸能祭」が開催され、開会式で鶴田町訪問団の紹介がありました。

また、会場内に設けられた特産品の販売ブースでは、鶴田町みどりの会がリンゴを、道の駅つるた鶴の里あるじゃがスチューベンなどの町の特産品を販売しました。

ねぶた運行

さつま町の中央にあるプラッセだいわ（スーパー）前の通りでねぶた運行が盛大に行われました。



・訪問団がさつま町を去る際、たくさんのさつま町職員と鶴田幼稚園の園児の皆さんが見送ってくださり、日高町長からは再会を約束するあいさつが述べられました。

平成22年度、宝くじ普及広報事業費でこれらの事業が行われました